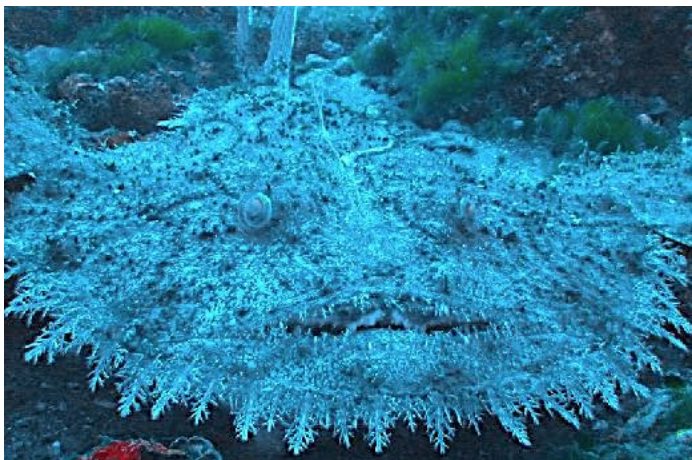


真鶴の海中の様子

深い海から浅い海へ アンコウ



キアンコウ(上)、定置網の海中の様子(左下)

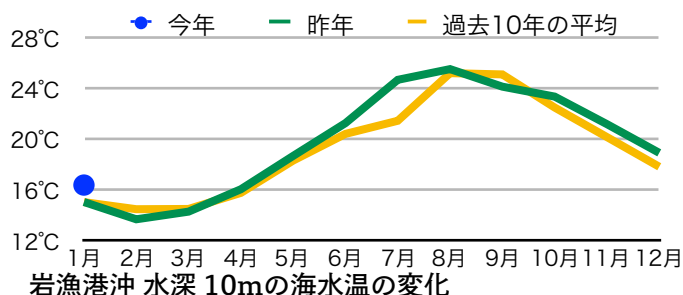
1月の終わり、漁師さんたちのご協力で、琴ヶ浜沖の定置網の海中の様子をスキューバダイビングで見せていただく機会を得ました。無数の魚が定置網の中を泳いでいる姿

を期待していましたが、残念ながら最も漁獲の少ない時期で、魚の姿はあまり多くはありませんでした。しかし、透明度はよく、定置網の海中の様子(写真左下)を確認することができました。そして、定置網の入口そばの海底には、アンコウの仲間、キアンコウ(写真上)の姿がありました。アンコウは通常、数百メートルの深い海に暮らしていますが、この時期から初夏までは産卵のため、浅い海で過ごしていると言われています。時折、定置網にも入り、漁獲されることもあるそうです。<協力：真鶴町漁協 青木一隆さん、岩漁協、岩ダイビングセンター>

真鶴の海況

過去10年の平均よりも1.4℃暖かい海水温

例年、真鶴では1月には15.0℃程度まで海水温が下がりますが、今年1月は16.4℃と例年より高く、秋以降、例年より高い状態が続いています。海水温があまり下がらないと、ノリやワカメなどの海藻類が育たない心配があります。さらに、漁獲への影響も懸念されます。また、大きなスケールで見ただけの場合、海水温の変化は降水量や台風の勢力にも関係してきます。真鶴の海水温が今後どのように推移するのか気になるところです。<データ提供：横浜国立大学>



真鶴の漁獲情報

漁獲がかなり低水準 ハバノリは遅れて

真鶴町漁協では、例年漁獲が落ちる時期ではあるものの、先月に引き続き、定置網での漁獲の少ない日が続いています。時折、イシダイなど普段から半島の周りにはいる魚やアンコウなどの底魚が入るぐらいで、直販所も1月末から開店できない状況が続いています(2月25日にやっと営業することができたそうです)。もうすぐ海は春を迎えます。色々な魚種が戻り、水揚げも回復してくれることを待つのみです。一方で、真鶴の冬の風物詩であるハバノリは、例年より遅れたものの採れ始めたようで、町内で日干ししている光景を目にする機会が増えてきました。(ハバノリは漁業権の対象ですので、一般の方は採取できません。) <情報提供：真鶴町漁協>



真鶴の冬の風物詩、ハバノリ干しの風景(左)、磯に生育するハバノリ(右)

トピック まなづるの海

真鶴の海を次世代に 真鶴中 海の授業

2月下旬、町立遠藤貝類博物館とディスカバーブルーが真鶴中3年生を対象に海の授業を行いました。小学校の6年間に毎年「海の学校」で海の生き物に触れ、中学校では漁業などを学んだ生徒たち。卒業を前に、それらの総まとめとして、現在の海の課題と真鶴の活性化について考えてもらいました。

また、ディスカバーブルーでは、小さなお子さんと海で遊ぶためのガイドブックを製作しました。町内各所で無料配布しています。3月には関連イベントも開催します。

町立遠藤貝類博物館では、真鶴の海に関わる方たちとともに、真鶴の海を持続可能な形で次世代につなぐ取り組みを今後とも行なっていく予定です。



真鶴中学校3年生「海の授業」の様子(左)、「幼児向け親子で楽しむまなづる海あそびガイドブック」(右)

2019年3月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 【開催中】 写真展「知られざる真鶴の海2」(ダイバーから募集した写真) 町立遠藤貝類博物館で5/8(水)まで開催予定
- 3月7日(木) 親子で楽しむまなづる海あそび 砂浜あそび【要予約・50円/人】
- 3月17日(日) 港あそび【要予約・50円/人】
- 3月21日(木・祝) 磯あそび【要予約・50円/人】
- [主催:ディスカバーブルー 協力:教育委員会] 幼児と保護者向け 詳細はディスカバーブルー HPへ
- 3月23日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」 三ツ石海岸・遠藤貝類博物館【有料】

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロードができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。